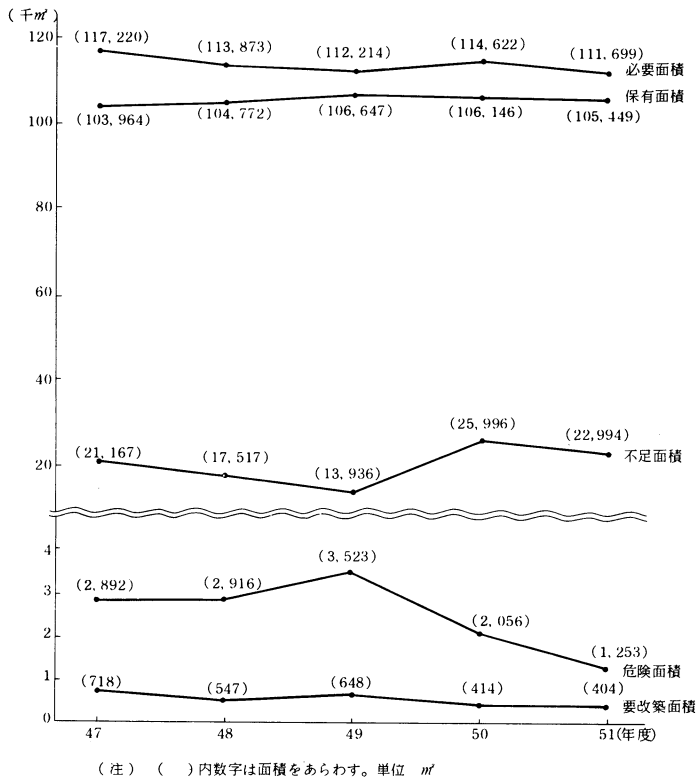


図4 公立高等学校施設状況の推移（屋内運動場）



昭和四十九年度において増加が見られるが年々減少の傾向を示している。危険面積に対して要改築面積比率を見ると危険面積における要改築面積は少ないことを示している。

(2) 屋内運動場保有校現況
屋内運動場保有校現況は図6のとおりである。

整備計画校は本校八十二校（併置校

三校除く）分校十一校で計九十三校である。うち未保有校は五校で五％にあたり、なお構造別に見ると鉄骨造が八十一校で圧倒的に多く九五％を示している。

木造が六校で七％、鉄筋造がわずかに一校で一％という現況になっている。

図5 構造別保有状況の推移（屋内運動場）

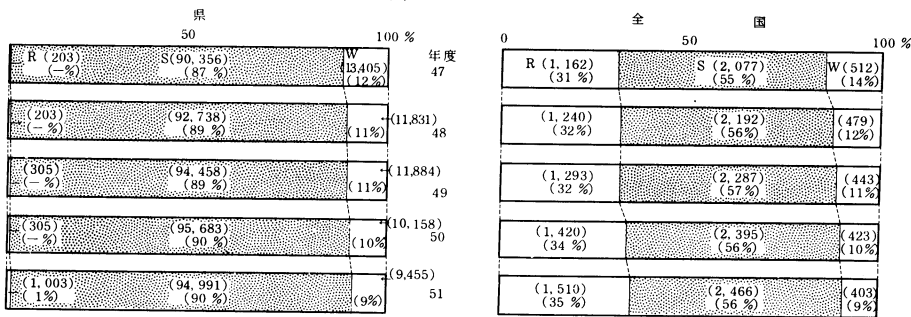


図6 屋内運動場保有校現況

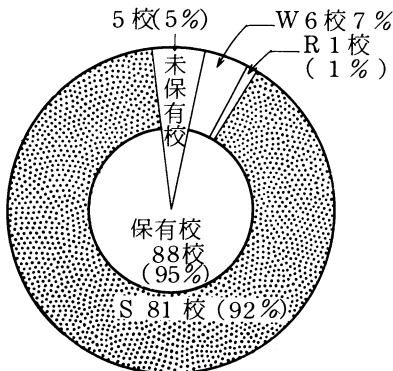


表4 屋内運動場の保有面積，木造面積にしめる危険面積 要改築面積比率

区分 年度	保有面積 (A)	木造面積 (B)	比率 (B)/(A)	危険面積 (C)	比率 (C)/(B)	要改築面積 (D)	比率 (D)/(C)
47	103,964	13,405	12.8%	2,892	21.6%	718	24.8%
48	104,772	11,831	11.2	2,916	24.6	547	18.8
49	106,647	11,884	11.1	3,523	29.6	648	18.4
50	106,146	10,158	9.5	2,056	20.2	414	20.1
51	105,449	9,455	8.9	1,253	13.3	404	32.2

(注) 公立学校建物の実態調査報告（毎年5月1日現在）による。